

学校名	昭和村立昭和小学校	校長	安藤 裕明
住所	大沼郡昭和村大字下中津川字二十苅 2 5 5 番地		
TEL	0 2 4 1 - 5 7 - 2 2 0 2	URL	https://showa.fcs.ed.jp/

学校と地域のつながりの中で育む「昭和愛」

子どもたちが、未来へ持続可能な昭和村の担い手となるよう教育課程を構想しています。そのためには、子どもたちに「昭和愛」を育成することが必須と捉え、学校と地域が密に連携しながら学習活動を展開しています。昭和村の「ひと、もの、こと」を活用、教材化し「昭和村のよさ」を実感させたり、詳しい人に聞く、実物を見に行くなどの「本物にふれる学習」を積極的に取り入れたりしています。



(全校生での稲刈り体験のあとに)



(草花での輪飾り作り)

年長者との関わりから村のよさを知る

1, 2年生は年6回、村のボランティア団体である「杉の子会」と交流しています。杉の子会の方の昔語りを聞いたり、一緒に昔遊びや団子さしを楽しんだりします。11月の村文化祭に出品するために、力を合わせて作品作りにも取り組みます。1, 2年生は活動も好きですが、もっとも好きなことがあります。それは、活動中での何気ない年長者の方とのお話です。昔の村や子どもたちの様子を聞くことで思いを馳せ、改めて「ふるさと昭和」のよさを感じています。

生産者の思いにふれて

3, 4年生は、村の主力産業の一つ「カスミソウ」を題材に総合的な学習の時間に取り組んでいます。学習開始時は「カスミソウ栽培が盛んだ」「近所にもカスミソウを栽培している方がいる」くらいの認識ですが、学習が進むごとに「なぜ」「どうして」「どのように」と問いが出てきます。ついには「実物を見たい」「育ててみたい」との思いが大きくなり、栽培の手伝いやカスミソウの保管施設「雪室」の見学へと学習につながります。生産者の(一つ一つ丁寧に…)方の工夫や熱意を知ること、将来は昭和村でカスミソウ栽培をしたいと考えている子もいます。



村の宝を学びのステージに

毎年6月には、村の宝である矢ノ原湿原と駒止湿原を学びの舞台に全校生で「自然教室」を行っています(矢ノ原湿原と駒止湿原を隔年で実施)。湿原案内人の方と一緒に散策しながら、湿原ならではの生きものについて説明を受けます。子どもたちは目を丸くして話を聞き、自然の神秘さに感動します。昭和村には、貴重な生きものが棲み、多くの人々が訪れる湿原が二つもあることに誇りをもっています。環境保全の大切さも学んでいます。



(自然の偉大さに感動!)

持続可能な昭和村の担い手を育成すること

子どもたちが昭和村の「ひと、もの、こと」とふれるとき、いつも以上に瞳が輝きます。新たな気づきや学びがあった瞬間であり、村のよさを再発見した瞬間なのでしょう。また、そのよさとつながっている自分を認識できたときなのかもしれません。未来の昭和村について真剣に考え、働きかける子どもたちを育成することは、今の自分の立ち位置から未来を見据え、創造する力を育てることであると考えます。(「昭和村のよさを知っています」の回答「はい」の割合: 27人中25人 令和3年11月実施学校評価の児童アンケートより)